



PRESS RELEASE

令和7年9月29日

取手市 教育委員会 教育総務課

伐採した思い出の桜の木を世界に一つだけの作品に —東京藝術大学教員と白山小学校児童との共同制作品を展示—

白山小学校の大規模工事を行うに当たり、白山小学校のシンボルとして長年、校庭から児童を見守っていた桜の木について、老木化していたことや校庭の面積を確保するため、やむなく令和6年4月に伐採しました。

この思い出の桜の木を使った作品を残そうと、東京藝術大学教員と白山小学校児童がワークショップを通じた作品制作を行いました。この作品や作品のもとになった桜の枝が、ゲストアーティストや教員、学生の作品とともに東京藝術大学取手キャンパスにて展示されます。

(1) 日 時 令和7年10月15日(水)～令和7年10月26日(日) 10:00～17:00

(2) 会 場 東京藝術大学大学美術館取手館 多目的ホール

(3) 内 容 企 画 名:「キャッチャー・オヴ・ザ・フェルド」

伐採木から始まる造形の可能性について

概 要: 伐採木から始まる手仕事と造形の可能性についての展示

企 画: 菌部 秀徳(そのべ ひでのり)氏 (1974年生まれ・51歳)

東京藝術大学美術学部 素材造形(木材・木工芸) 講師

静岡文化芸術大学 非常勤講師

展示監修: 小澤 剛(おざわ つよし)氏 (1965年生まれ・60歳)

東京藝術大学美術学部 先端芸術表現科 教授

「キャッチャー・オヴ・ザ・フェルド」実行委員会による企画説明

取手市立白山小学校で伐採された学校のシンボルの桜の巨木を活用し、また取手校地の学生らと学内などの伐採木を使った作品と地域連携型アートの展示を企画する。この企画では、伐採木を「与える存在(Giver)」として受け取り、手仕事によって形を与える「キャッチャー(Catcher)」としての我々が制作を行い、木が持つ物語や記憶と再生を試みた。

高度に効率化された社会の中での商品としての木材と異なり、伐採木は来歴が明確で、多様な創造の可能性を秘めている。これらで制作をする事を通して、過去の知恵や手仕事を尊重し、自然とのつながりを見直す機会を生み出そうと思う。失われた「大きな物語」

に代わって、「小さな物語」が人と世界をつなぐ役割を果たすと信じている。

私たちは未来のアートのあり方として、経済システムに依存をし過ぎず、身近な素材を価値あるものとし、古来の方法論を活かしながら、善意と贈与を基盤に据える姿勢の取り組みを作ろうと思う。それは新たなアートエコシステムを構築する手がかりだと思っている。

(伐採する前の桜の木)



(令和7年1月にワークショップを通じて児童が制作した桜の絵画)



問い合わせ先	取手市 教育委員会 教育総務課 施設管理係 担当者：上村（かみむら）・服部（はっとり） 電 話：0297-74-2141（内線 2014） E-mail：kyouikusoumuka@city.toride.ibaraki.jp
--------	---